

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな 経済フラッシュ

## (日銀金融政策決定会合)

2018/6/15

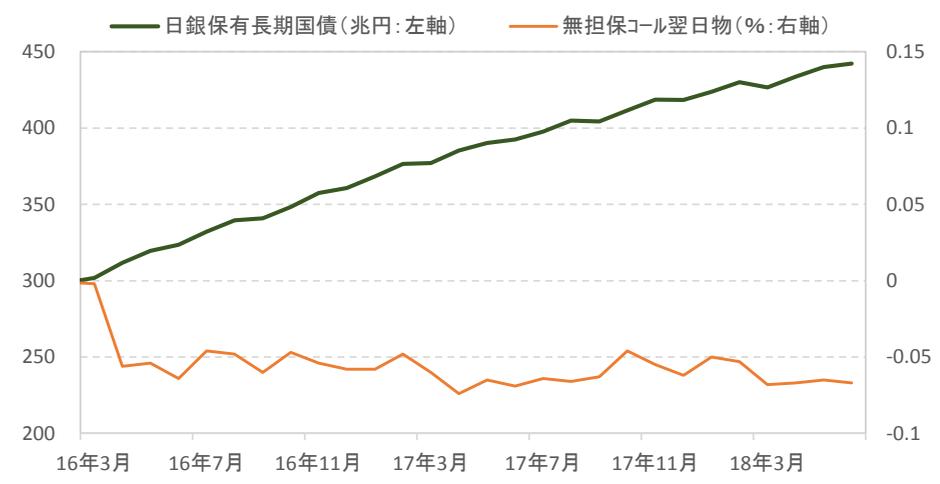
りそなホールディングス 市場企画部



### 〇概況

- ◆ 政策金利▲0.1%、10年金利目標水準0%、国債買入れペース年間80兆円は変更なし
  - ◆ 成長率、物価見通しに変化なし
  - ◆ 日銀の政策スタンスは当面様子見の見通し
- ✓ 日本銀行は6月14-15日の金融政策決定会合にて、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続を決定した。
  - ✓ 主な政策は以下の通り。長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）：日銀当座預金残高のうち、政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用。また、10年国債利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債買入れを実行。買入れ額は概ね現状ペース（年間80兆円増）をめど。ETF・J-REITの買入れは、それぞれ年間約6兆円・約900億円ペースで保有残高拡大。CP等・社債等はそれぞれ約2.2兆円・約3.2兆円の残高を維持。
  - ✓ 成長率、物価見通しに変化なし。
  - ✓ 前回に続き、片岡審議委員が上記提案に反対。消費増税や米国景気後退など2020年度までのリスク要因を考慮すると、金融緩和を一段と強化することが望ましく、10年以上の幅広い国債金利を一段と引き下げよう、長期国債の買入れを行うことが適当である。コミットメントを強化し、2%の「物価安定の目標」をできるだけ早期に達成する観点から、中長期の予想物価上昇率に関する現状評価が下方修正された場合には、追加緩和手段を講じることが適当であり、これを本文中に記述することが必要であるとした。
  - ✓ 今週は主要国中銀の会合が相次いだ。FRBは今年2回目の利上げを実施し、今後の金融政策見通しも上方修正。またECBは年内の量的緩和停止を決定した。日銀は今後の方針についてFRBやECBの様に具体的な提示はしていない。黒田日銀総裁はこれまで出口戦略について「時期尚早」とのスタンスを貫いてきたが、このスタンスに変化がないか注目したい。

【日銀が保有する長期国債残高と翌日物金利】



【2017-2020年度の政策委員の大勢見通し（4月時点）】

(対前年比、%)	実質GDP			消費者物価指数 (除く生鮮食品)		消費税率引き上げ
	+	~	-	+	~	-
2017年度	<b>+1.8%</b>	~	<b>1.9%</b>	<b>+0.7%</b>		
1月時点の見通し	+1.8%	~	+2.0%	+0.7%	~	+1.0%
2018年度	<b>1.4%</b>	~	<b>1.7%</b>	<b>1.2%</b> ~ <b>1.3%</b>		
1月時点の見通し	+1.3%	~	+1.4%	1.3%	~	+1.6%
2019年度	<b>+0.7%</b>	~	<b>+0.9%</b>	<b>+2.0%~+2.3%</b>	<b>+1.5%~+1.8%</b>	
1月時点の見通し	+0.7%	~	0.9%	+2.0%~+2.5%	+1.5%~+2.0%	
2020年度	<b>0.6%</b>	~	<b>1.0%</b>	<b>+2.0%~+2.3%</b>	<b>+1.5%~+1.8%</b>	

【出所】日本銀行、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。